

重 要 記 録

1 歩いて楽しいまちづくりの推進（通年）

7月22日に歩いて楽しいまちづくり宣言を行った。米子駅周辺、角盤町周辺、米子港周辺などのまちなかで「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の空間へと転換することを目指し、歩いて楽しいまちの実現に向けて取組を推進している。

2 がいなロード開通と米子駅新駅舎の開業（7月）

米子駅の南北をつなぐ自由通路「がいなロード」が7月29日に開通した。米子駅新駅舎も同時に開業し、駅南広場も整備されるなど、山陰の玄関口である米子駅と周辺地域の利便性が大きく向上した。開通の当日には、記念式典や駅の南北で記念イベントを開催し、多くの方と記念すべき日を盛大に迎え、米子市の目指す「歩いて楽しいまち」の実現に向けた大きな一歩となった。

また、官民一体となって開通記念イベントを10月末までの期間開催し、賑わい創出に向けた機運を盛り上げた。

3 三上紗也可選手、パリオリンピック出場内定（7月）

7月に福岡県で開催された世界水泳選手権の女子3m飛び板飛び込みで、米子市出身の三上紗也可選手が7位に入賞し、パリオリンピックの日本代表に内定した。三上選手のオリンピック出場は、2021年の東京大会に引き続き2度目となる。

また、10月に中国・杭州で開催されたアジア大会でも3位に入るなど活躍された。

4 全日本トライアスロン皆生大会を4年ぶりにフルコースで開催（7月）

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことにより、全日本トライアスロン皆生大会を令和元年以来4年ぶりにフルコースで開催した。スイム3キロ、バイク140キロ、ラン40キロのレースに、県内外から1,079名の選手が参加し、完走率は67%であった。

5 フレイル対策事業の本格的な全市展開（7月～）

健康寿命の延伸に向け「米子市フレイル予防アプリ」を開発し、65歳以上の対象者に「フレイル度チェック」の案内を送付するとともに、チェック結果に応じた予防実践の取組を実施するなど、一連のフレイル対策を官民協働で全市展開した。

6 がいな祭50周年（8月）

第50回米子がいな祭を、令和5年8月19日（土）・8月20日（日）に米子駅周辺で開催した。「がいな太鼓」「がいな万灯」「がいなCONパレード」、米子市に縁のある豪華ゲストのステージ、米子城跡天守台への「バルーン米子城」の設置のほか1万発の大花火大会などを執り行った。

7 マイナンバーカードの交付枚数率80%超え（9月）

マイナンバーカードの普及促進に係る様々な取組を実施することで、マイナンバーカードの交付枚数率が80%を超えた。

8 都市整備部が糍町庁舎に 県税事務所が市役所に～縣市連携による新たな行政体制～（10月）

鳥取県西部総合事務所3号館・米子市役所糍町庁舎が令和5年8月に竣工した。同庁舎には、米子県土整備局及び市都市整備部等が入居し10月1日から供用開始に至った。

また、同月16日には、市役所に鳥取県西部県税事務所が移転し、これにより県と市の建設・建築部門（糍町庁舎）、税務部門（本庁舎）で県・市の相互連携体制を構築した。

9 令和4年度の米子市のふるさと納税額 中国地方1位・5年連続県内トップ（10月）

寄附金受領証明書等の発行発送手続を外部委託し、職員が事業者を訪問する時間を確保し、返礼品の数を増やしたことや、寄附者の利便性向上のためオンラインワンストップ申請を導入した結果、令和4年度のふるさと納税寄附額が13億7,350万6,000円で中国地方で1位、5年連続県内トップとなった。

10 米子城跡・ダイヤモンド大山観望会に1日で約2,500人登城（10月）

大山の山頂に朝日が昇る「ダイヤモンド大山」の観望会を10月21日・22日に米子城跡で開催した。1日目はあいにくの天気となったが、2日目は天候に恵まれ約2,500人が登城し、米子城跡から輝く朝日を望んだ。

11 皆生温泉エリアでの新たな温泉街づくりの取組がグッドデザイン賞受賞（10月）

皆生温泉エリア経営実行委員会による皆生温泉エリアの魅力向上に向けた取組が、10月に「2023年度グッドデザイン賞」を受賞した。まちの回遊性を高める社会実験「ぐるぐるかいけ」や海沿いの遊歩道に設置された共用空間などが評価された。

12 米子空港からの国際定期便運航再開（10月～）

コロナ禍により運休していた米子鬼太郎空港からの国際定期便2路線が運航を再開した。ソウル便は10月から毎週水・金・日曜日の週3便で平均搭乗率は約88%、香港便は12月から2月まで冬季限定の週4便で平均搭乗率は約60%であった。韓国及び香港から本市周辺エリアへの来訪が身近になったことにより、インバウンド観光客の増加につながった。

13 尾高城跡が国指定史跡へ（10月、2月）

尾高城跡の本丸と二の丸の発掘調査で、新たな遺構や石垣などが発見され、中世の土塁の城から近世の石垣の城への変遷がわかった。この発掘調査の成果が、当時の築城の変化を知る貴重な資料として評価され、国史跡に指定するよう10月に国の文化審議会から答申が出され、2月に国史跡として指定された。

14 名水百選「天の真名井」水車が復活（2月）

淀江町高井谷の名水百選「天の真名井」を象徴し、地域のシンボルであった水車が近年動かなくなっていたことから、地元自治会が中心となり復活プロジェクトを実施し、見事完成・復活に至った。

1 5 米子アリーナの整備事業者を決定（3月）

県と共同で整備する「米子アリーナ」の設計・建設・管理運営を一体的に担う整備事業者を、地元建設事業者を代表企業者とする「がいなSYAパートナーズ株式会社」に決定した。米子アリーナは、全国規模の大会を開催できるスポーツ機能に加え、有事には防災拠点としても活用できる県内最大の総合体育館となり、令和9年3月のオープンを予定している。

1 6 米子城跡三の丸便益施設の供用開始（3月）

米子城跡の利便性向上のため、三の丸跡に便益施設「米子城跡三の丸番所」を開設した。同施設は、休憩スペース、トイレ及び米子城跡のガイダンス機能を備えた施設になっている。

1 7 米子インター西産業用地の整備事業について全ての工事が完了（3月）

地域経済の活性化・雇用機会の拡大を通じた、少子高齢化や若年層の人口流出といった諸問題の解決を目的とし、米子インター周辺工業用地の南側に拡大するかたちで約5.4ヘクタールの産業用地を開発した。本市として初めて農村産業法を活用した産業用地の整備であり、令和5年度末をもって全ての工事を完了した。